

総合病院国保旭中央病院で診療を受けられる患者さんへ

総合病院国保旭中央病院では、以下の研究を実施しております。

研究の対象になる可能性がある患者さんで、診療情報が研究目的で利用されることを望まれない方は、下記のお問い合わせ先にご連絡下さい。

1. 研究課題名

下顎骨腐骨除去術における、超音波ガイド下下歯槽神経ブロック・持続カテーテルの有効性の検討

2. 研究の対象患者

当院の歯科・歯科口腔外科の症例で、以下の選択基準をすべて満たし、除外基準のいずれにも該当しない方

・選択基準

以下の基準を全て満たす方を対象とする

- 1) 下顎の腐骨除去手術を全身麻酔下にて受けた方
- 2) 手術時点で年齢が20歳以上の方
- 3) 性別不問

・除外基準

以下のいずれかに抵触する方は本研究に組み入れないこととする

- 1) 手術部位が下顎以外にも及んだ方
- 2) 術後鎮痛としてIV-PCA(経静脈的自己調節鎮痛法)を使用した方
- 3) その他、研究責任(分担)者が研究対象者として不適当と判断した方

3. 研究の対象期間

2014年4月1日～2026年6月30日

4. 研究の概要

現在、全身麻酔下手術後の疼痛コントロールは神経ブロックや硬膜外麻酔など、局所麻酔を用いることで麻薬の使用量を抑える傾向になっている。これは麻薬多量使用による術後合併症を減らすことが目的である。頭頸部手術においては長期作用型の局所麻酔を用いた神経ブロックが近年行われるようになったが、それでも術後鎮痛に難渋する症例がある。

近年、頭頸部領域の超音波ガイド下下歯槽神経ブロックが考案され、安全にかつ確実にできる手技として注目されている。下歯槽神経ブロックは下顎を支配する神経をブロックするため、下顎を対象とする手術であれば奏功する。現在当院で頭頸部領域における手術で下歯槽神経ブロックを行っているが、術後の疼痛コントロールが良好なことが多く、有効であることが示唆されている。神経ブロックを行う際に、カテーテルを留置することでより長時間の鎮痛を期待できるが、その有効性についてはまだ検討されていない。

本研究では主要評価項目を術後の鎮痛に設定し、当院にて下顎を対象とする手術の一つである腐骨除去手術を受けた患者を対象として、術後経過および診療録をもとに後ろ向きに解析し、超音波ガイド下下歯槽神経ブロック・持続カテーテル留置の有効性について検討する。本研究の成果により、当該手術を受けた患者に対しより優れた術後疼痛管理を提供できる可能性がある。

5. 研究実施予定期間

2026年7月22日～2027年12月31日

6. 研究に用いる試料・情報の種類

研究対象者背景：生年月日、年齢、性別、身長、体重、既往歴、合併症、最終観察日・観察項目、入院日、手術名・手術日、診断名、手術時間、麻酔時間、術中の鎮痛剤、術後入院中に使用した鎮痛薬、術後食事量、治療経過、転帰

7. 研究により得られた結果等の研究対象者への説明方針

本研究は既存の日常診療情報を用いる後ろ向き観察研究であることを踏まえ、研究対象者の健康状態等の評価に関する知見が得られた場合でも、研究対象者(又は代諾者)個々に結果説明することはありません。

8. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保証に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

（連絡先）地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院

・ 研究責任者： 小島 佑貴（麻酔科）

・ 臨床研究支援センター

電話：0479-63-8111(代)